

森林組合が上野原の街構想

「首都圏癒しの郷」に

北都留森林組合(波多野晃 組合長)は上野原市の街づくりに関する構想を策定した。市内全域にあふれる自然を



小沢 甲吾、笠井 壽弥 (富士吉田)
雨宮 丈貴 (大月・上野原)
仲沢 篤志 (都留)
植田 裕作

富士吉田支社 (0555)24-1000
FAX 23-6997
都留支局 (0554)45-8880
FAX 45-8880
大月・上野原支局 (0554)22-0477
FAX 23-2324

「首都圏の癒しの郷」として整備し、都市部の住民にPRする内容。行政や市民、民間業者に協力を求めて実現を目指す。

構想は組合が独自に取りまとめた。住宅需要の低迷や安い輸入木材に押されて国内の林業が衰退している中、自然を観光資源と捉え直すことで、手入れができずに荒廃する森林の保全と、人口減少が続く地域に活力を注入する狙い。誘客の柱として、リラック

して再整備。2016年度に利用開始となる中央自動車道談合坂スマートインターチェンジ周辺に自然体験の拠点となる施設建設を盛り込んでいく。

構想を実現するため、市内で学習会を開いて個人や企業などとの連携を図る。市政運営の基本方針となる第2次長期総合計画(17年度からの10年間に反映)に反映するよう行政にも働き掛けていく。

ス効果などがある。近年注目された森林療法に着目した。具体的には、これまで行ってきた林業体験に森林療法の手法を導入。参加者の協力を得ながら効果的なプログラムを作り、宿泊型ツアーにして売り込む。

このほか、市内の桂川河川敷や八重山を、健康について学べる「セラピーロード」としている。

波多野組合長は「組合単独では難しい事業が多く、市全体で取り組むことが成功の鍵。山梨の東の玄関口という立地条件を生かして、都市部から人を呼び込みたい」と話している。